施政方針説明要旨

３月定例会

令和７年（２０２５年）２月２１日

令和７年３月定例会において、令和６年度補正予算案および令和７年度予算案ならびにこれに関連する諸議案を提出し、ご審議いただくにあたり、私の市政運営に関する所信を申し上げます。

私たちを取り巻く経済情勢は、約３０年ぶりの高水準での賃上げ、堅調な増加が見込まれる設備投資など明るい兆しも見えてきました。人々の実感として豊かさを感じられるためには、賃金・所得が増えていくことが必要不可欠です。私は、豊中市を支えるのは「人」であり、人とのつながりや人材こそが付加価値を生み出す源泉であると常日頃から申し上げてまいりました。「人」に重きを置いて経済、社会をまわす時代へとステージが変わりつつある今、こうした価値観を議員、職員、市民の皆さんと共有し、都市経営を進めていきたいと考えています。

今年の４月には「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとした大阪・関西万博が開幕します。日本をはじめ、世界各国からさまざまな英知が集まり、多くの人が大阪を訪れ、活気にあふれる国内最大級のイベントとなることが期待され

ます。たくさんの人が宇宙や脱炭素、健康・医療など世界の最先端の技術や文化に触れ、大きな刺激を受けることでしょう。

大阪・関西万博のパビリオンの一つ、「いのち動的平衡館」をプロデュースされている生物学者の福岡伸一さんのお話を聞く機会がありました。生物は、生き続けるために、あえて細胞を壊し続けることでバランスを保っているという「動的平衡」の概念を紹介されました。

私は、市政運営においても、変化し続けることがむしろ安定をもたらし、まちの持続可能性を高めることにつながるものと、変革にかける想いを改めて強くしたところです。

市長として、２期目の基本政策完遂に向けて、「未来への投資」と「変革」の一体的な実施により、市政運営の基本理念である「創る改革」を加速させ、豊中をさらに発展・成長させるため、全身全霊で職責を果たしてまいります。

昨年を振り返りますと、１１月に沖縄市との兄弟都市提携５０周年を迎えました。記念式典のほか、野球やバスケットボールなどの小学生のスポーツ交流や高校生が平和について学習するスタディツアーを開催しました。これまでさまざま

な分野で、きょうだいを思いやるような、まさに「いちゃりばちょーでー」の気持ちでともに築いてきた絆を、これからの時代を担う若い世代につなげていく契機となりました。

また、全国の自治体とは新たな協定の締結に加え、豊中まつりや農業祭への出展などで、さまざまなつながりを築き、深めてきました。

加えて、全国の企業の皆さんとは共感いただいた政策への企業版ふるさと納税を活用したご寄附や、新たな連携協定の締結などを通じて、社会課題をともに解決していく基盤を築いてまいりました。

こうしたつながりを平時のみならず、災害などの非常時においても市政の強固な支えとして、まちのさらなる発展・成長に向けて施策を展開してまいります。

また、昨年も若い世代の皆さんが大活躍をしてくれました。

未来を担う若者たちがスポーツや文化を通じて世界に挑む姿は、力強さと前向きなエネルギーに満ち、私たちに希望を与えてくれました。

未来を担うこども・若者が輝くまちづくり。

これをどまんなかに市政を進めてまいります。

本年は、阪神・淡路大震災から３０年を迎える節目の年となります。建物の耐震化、災害時の消防や医療体制、食料や物品の備蓄体制など、この未曾有の災害から得た教訓は多くあります。

災害対策に終わりはありません。

全国各地で地震や豪雨などが頻発し、被害が甚大化するなか、本市の豊かな「市民力」「地域力」を活かし、市民の皆さんとともに災害に強いまちづくりを進めていきます。

昨年実施した「くらしの豊かさ実感調査」では、現在の幸福度について、０から１０までの１１段階評価で上から３つ目の「８」と答える方が一番多い結果となりました。市民の皆さんが、くらしのなかに幸せを感じていただいていることが、豊中の誇りである「市民力」の源になっているものと考えています。だからこそ、私は、豊中に住む一人ひとりが“豊かに生きること”ができるまちの実現に向け、先人が築いてこられたこのまちを、引き続き、市民起点・現場起点で未来にしっかりとつないでまいります。

今年４月、いよいよ児童相談所を開設します。

中核市としては、大阪府内で初となる取組みであり、機構上も市制施行以来、最大規模となります。

行政、民間、地域の力すべてを結集して、豊中の子どもたちを豊中で守り、課題対応できるようになります。

そして、市民の皆さんに最も身近な行政機関として持ち得る権限を最大限活かし総合的に都市経営を進めてまいります。

令和７年度予算編成においては、まちの発展・成長に向けた投資を持続的に行うべく、さらに施策の重点化を進め、市民サービスの質の向上、さらには、まちの新たな価値の創造につなげることを基本とした３つのプロジェクトと変革を一体的に進めていくこととしました。

令和７年度予算案においては、３つのプロジェクトに新たに３５億６，０６６万１千円の大胆な配分をしています。

まず、３つのプロジェクトの核となる「子育てしやすさＮＯ．１プロジェクト」です。

昨年より開始した小学校校門の朝７時開門は、社会全体に大

きなインパクトをもたらし、「この事業があることで選択の幅が拡がった」といった保護者からの喜びの声もいただきました。初年度の状況をふまえ、さらに利用しやすい環境づくりを進めます。

「小１の壁」の解消に向け、こうした取組みをはじめ、保護者の皆さんの多様な働き方に対応し、仕事か子育てかではなく仕事も子育ても両立し、保護者が子どもと向き合う時間、子どもたちが安心して過ごせる時間を増やす施策を展開してまいります。

また、新たに開設する児童相談所とはぐくみセンターを両輪に子どもとその家庭、子育てをまるごとサポートします。

まさに「こどもまんなか」社会の実現に向け、まちの発展・成長の“核”として、こども政策の充実・強化に引き続き取り組みます。

本市の強みである教育・文化に対する市民の高い関心や、良好な住環境、優れた交通利便性、多くの事業所の立地など本市の優位性をさらに高める新たなプロジェクトの推進により、まちの発展・成長をけん引します。

２つめのプロジェクトは「快適・賑わい・憩い空間づくりプロジェクト」です。

良好な住環境や交通利便性は、これまでも市内外の方々から非常に高い評価を得てきました。転入者向けに実施しているアンケートにおいても、本市を選んだ理由の上位になっています。

市民の皆さんが暮らし、働き、学ぶ、まちの空間について、快適で、賑わいにあふれ、憩える魅力的な空間として、変化を実感してもらえるよう取組みを進めていきます。

例えば、歩行空間、公共施設、公園、駅周辺について、単に訪れる、用事を済ませるだけではなく、そこにいるだけで心が休まる、潤う、元気になる場に変えていきます。

行政だけではなく、民間事業者や地域の皆さんなど、さまざまな主体と連携し、地域の強みを活かして豊中ブランドを高めていきます。

３つめのプロジェクトは「とよなかエコシステム推進プロジェクト」です。

まちの発展・成長には、地域経済の活性化が不可欠です。大阪府内で４番目に事業所が集積するポテンシャルを活かし、力強い地域経済をつくってまいります。

これまで、西部・南部において促進してきた企業立地を、都市の機能や魅力を高めるため、新たな地域や業種に拡大します。

女性や高齢者のさらなる活躍をサポートするための仕組みづくりにも取り組みます。

また、スタートアップや子育て関連産業への支援を通じて、新たなエコシステムの芽を育ててまいります。

これらの取組みを通じて、市内におけるさらなる投資拡大・イノベーション創出につなげ、地域経済を活性化させます。

３つのプロジェクトを戦略的に実行するための土台となるのが「変革」です。

経営戦略に掲げる「変革」の取組みは、単なるスクラップや効率化を追い求めるものではなく、新たな価値の創造へのたゆまぬ挑戦です。

既成概念にとらわれない多角的な視点での歳入確保、民間との共創、ＤＸなど「変革」を通して戦略的な投資のための財源を創出するとともに、時代にあわせ、サービスを見直し、生み出す取組みを進めます。

昨年１１月、中豊島小学校でコンクリートの塊が落下すると

いう、子どもの学びの環境を脅かす重大な事案がありました。その後、速やかに全校一斉点検を行い、緊急対策を講じているところであります。学校施設の老朽化が進むなか、安全、安心な学びの環境づくりは、未来への投資を語るうえで、根本的な課題の一つです。学校施設の更新ならびに財源の確保を確実に進めていくため、これらの具体策を検討するプロジェクトチームを新たに設け、この課題にしっかりと対応してまいります。

市政の運営にあたっては、平和主義、民主主義、基本的人権の尊重という憲法の理念や自治基本条例の原則にのっとり、柔軟な発想と行動力、都市経営の視点をもって力強く進めてまいります。

以上の施策を含めた令和７年度の予算規模としましては、

一　般　会　計	２，０７５億	９０９万４千円
特　別　会　計	９２０億	７，８０８万９千円
病院事業会計	３１５億	７，９７６万８千円
水道事業会計	１３７億	９，２３４万９千円
公共下水道事業会計	２４３億	７，２６８万６千円
合　　計	３，６９３億	３，１９８万６千円

で、前年度予算と比べまして、全会計では８．９％増、一般会計では１２．５％増となっております。

それでは、基本政策の６つの柱にそって、主な内容につきまして、順次ご説明を申し上げます。

子育て・教育〔健やかに育ち、楽しく学ぶことができるまち とよなか〕

まず、「健やかに育ち、楽しく学ぶことができるまち とよなか」です。

「子育てしやすさＮＯ.1プロジェクト」の取組みをより一層、力強く進めてまいります。

「小１の壁」の解消に向けては、小学校の朝７時開門について、三季休業中の実施、保護者付き添い要件の見直しなど、より利用しやすい環境づくりを行います。

放課後こどもクラブでは、１室あたりの児童数を概ね４０人とするため、クラブ室を段階的に増室するとともに、英語やプログラミングなど習い事ができるクラブを拡大していきます。

また、出産・子育てを応援するため、妊娠・出産時の１０万円の給付に加え、新たに小学校入学時に、マチカネポイントを１万ポイント付与します。家事代行サービスなど特定の支援メニューをマチカネポイントで利用した場合には一部を還元します。

さらに、保護者が時間と心にゆとりをもって子育てできる

よう、「フリータイムプロジェクト」として、生成ＡＩを活用した子育て相談チャットボットの実証実験や、子育て支援ポータルサイトの創設など、サービスを探しやすく、使いやすくすることで保護者の子育てに係る負担感を軽減する取組みを進めます。

教育の質・機会をさらに高める取組みとしては、児童生徒一人一台タブレット端末の更新を順次進め、ＡＩドリルや教育ダッシュボードを活用するなど、府内ＮＯ．１の教育ＤＸに向けた取組みを強力に展開することで、学力向上や子どもに向き合う教育を進めます。

また、不登校生徒の学ぶ意思を大切にし、学びへのアクセスを確保する「学びの多様化学校」の設置に向けて取組みを進めます。

子ども・子育てをまるごと支援する取組みとしては、待機児童解消に向けて、４月に新たに２つの保育所を開園するとともに、保育所等の新規整備や増改築、認定こども園への移行促進に加え、保育人材確保の取組みにより保育定員数をさらに拡大します。また、病児保育を南部地域で新たに開設す

るとともに、２０時までの延長保育を実施する施設を増やします。

子育て世帯が身近に頼り、安心して子育てをすることができる環境づくりとして、すべての小学校区に「マイ子育てひろば」を設置すべく、令和７年度は２７校区に拡大します。多胎児家庭やヤングケアラーなど支援を要する家庭への訪問家事・育児支援の量を昨年に引き続きさらに拡大し、徹底サポートします。

また、特に厳しい家庭環境にあって、相談、支援が必要な子どものための居場所を８か所から１４か所に拡大します。

４月に開所する児童相談所・一時保護施設と、はぐくみセンターとが連携し、中核市豊中ならではの包括的な相談支援体制により、子どもたちが心身ともに健やかに育つことができる環境づくりを進めます。

「子育てしやすさＮＯ.１」に掲げた取組みに加え、子どもたちの学びを充実させる環境づくりを進めていきます。

庄内よつば学園については、令和８年度の開校に向けて整

備を進めます。また、新しい学校の形として、北丘、東丘の両小学校と第八中学校において、それぞれの学校が義務教育９年間、同じ教育目標のもと教育課程を編成・実施する、本市初となる学園制を令和８年度に導入することとし、その準備を進めます。

児童生徒が安全、安心かつ快適に学校生活が過ごせるよう、すべての小中学校においてトイレの洋式化と、エレベーターや体育館の空調設備の整備を令和７年度に完了させます。

多世代が集い、学び、まちづくりの拠点となる図書館については、中央図書館を曽根駅前に整備することとしました。令和１１年度のオープンに向け、取組みを進めてまいります。

また、新たな図書館スタイルとして、子どもたちがゆったりと過ごせるスペース、飲食可能スペース、自学自習スペースを整備し、親子や若者など新たな利用者層も呼び込み、多世代が集える螢池図書館を４月にリニューアルオープンします。

災害・感染症対策〔安全、安心に暮らせるまち とよなか〕

次に、「安全、安心に暮らせるまち とよなか」です。

阪神・淡路大震災では、本市は大阪府内の自治体で最大規模の被害を受けました。災害はいつ起きるかわかりません。

大震災から３０年を契機として、これまでの防災対策をブラッシュアップし、より一層強化します。

まず、避難所の生活環境改善です。

避難所となる学校体育館のトイレ洋式化や空調設備の整備に加え、トイレトラックを導入するとともに、簡易ベッドやテント、衛生的な簡易トイレなどの備蓄を強化します。

そして、発災時の地域での安否確認をより迅速に実施するため、行政への報告をオンライン上で行うとともに、高齢者等の避難支援を管理するシステムを導入するなど、防災ＤＸを推進します。

加えて、災害や防災に関する情報伝達を目的とした防災行政無線を更新します。

上下水道事業については、計画的に施設の改築更新・長寿命化、浸水対策等を進めます。

救急・消防については、救命力をさらに高めるため、市立豊中病院に救急救命士を配置し、救急診療支援による搬送体制の円滑化、救急救命士の技能向上などを進め、「救命力世界一」を盤石なものとします。

病院事業については、がん診療をはじめとする高度専門医療や緊急症例への対応を充実・強化し、より質の高い医療を提供することで、地域医療を支える病院としてのステージを高めてまいります。

また、全国的に相次ぐ凶悪な強盗や無差別殺傷事件対策に加え、児童の安全確保のため、見守りカメラを２２５台増設し、地域防犯力をさらに強化します。

まちづくり〔選んでもらえるまち とよなか〕

次に、「選んでもらえるまち とよなか」です。

「快適・賑わい・憩い空間づくりプロジェクト」として、公園や駅前、歩道などを皆さんの実感を伴うレベルで変化させ、地域の価値をさらに高めることで、「住みたい、住み続けたいまち」としての豊中ブランドをより強固なものにしてい

きます。

千里中央エリアについては、 北部大阪の都市拠点にふさわしい商業機能等の高度な集積を実現し、新たな時代に対応した競争力のあるまちへ更新します。具体的には、昨年８月に関係者の皆さんで構成する協議会でとりまとめた改訂版の千里中央地区活性化基本計画に基づき、“新・千里スタイル”を確立すべく、周辺の公園を都会のオアシスとして活かしながら、官民連携によりエリア一体的に投資を行っていきます。

服部天神駅では、地域の顔となる駅前広場の整備が完了します。安全性、利便性を確保し、魅力ある広場を整備することで、地域の活性化につなげます。

南部地域については、旧庄内さくら学園中学校跡地利活用に向けた事業者の公募を開始しました。引き続き、地域全体の魅力づくりを進めます。

神崎川駅周辺整備については、経済波及効果もふまえながら、事業化の検討を進めます。

曽根駅周辺については、中央図書館を核に文化・スポーツ施設が集積する地域特性を活かし、多世代が集い、賑わうエリアとして、ハード・ソフト両面から一体的にまちづくりを進めていきます。

豊中駅、岡町駅周辺では、魅力ある都市拠点の形成をめざし、地域のまちづくり活動を支援します。

緑地公園駅周辺から大阪国際空港周辺までの東西軸では、飛行機を間近に見ることができる原田緑地を「豊中つばさ公園『ma-zika』」として一部の供用を開始します。大阪府や空港運営者と連携して整備を進める千里川土手と一体的に、新たな魅力スポットとして、市民の皆さんと一緒に育んでまいります。

公園への交通手段の一つである豊中東西線バスについては、より便利に利用できるよう大型化します。

次に、快適な移動空間を充実させるために、西部・南部で運行している乗合タクシー「ＭｉｎａＮｏｔｔｅ（みなのって）」にＷＥＢ予約を導入し、利便性を向上させます。また、

道路勾配がきつい地域における移動支援を検討します。

保護者が、子育て施設まで安全で快適に子どもの送迎ができる「こどもの安心送迎ルート」の整備に向けて取り組みます。

市民の皆さんが気軽に集い、賑わい、憩えるよう、歩道やオープンスペースにベンチやパークレットを設置します。また、まち全体に彩りを添える「とよなか花いっぱい大作戦」を展開します。これらの取組みは、地域の皆さんや民間企業など多様な主体と連携しながら進めてまいります。

これまで多くの人に愛され、育てられ、利用されてきた公園について、地域ニーズや周辺の状況をふまえ、公園ごとの機能や利用方法などを、大胆に変えていきます。あわせて、暑さや雨をしのげる大屋根やパークカフェの設置などさらに魅力ある場所へとバージョンアップしていく「公園大改革」を進めていきます。

プロジェクトにおける取組みのほか、ゼロカーボンシティ

の実現に向けて、事業者の脱炭素経営を支援するとともに、電力の地産地消を強化するなど、脱炭素の取組みを推進します。

健康・共生〔いきいきと暮らせるまち　とよなか〕

次に、「いきいきと暮らせるまち　とよなか」です。

市民の皆さん一人ひとりが健やかに暮らし続けられるまちづくりを進めます。

ひとり暮らしの高齢者が安心して生活できる環境づくりとして、身寄りのない方のＩＣＴ見守りサービスの緊急連絡先となる事業者への補助を行います。

在宅医療については、がん患者への切れめのない支援を行うと同時に、若年がん患者が自宅で自分らしく安心して生活を送ることができるよう、在宅での療養生活を支援し、患者及びその家族の負担軽減を図ります。

４月から帯状疱疹ワクチンが定期予防接種に追加されます。市民の皆さんがより接種を受けやすくなるよう、接種費

用の一部を助成します。

老朽化が進む市立火葬場について、人生の最期を見送る厳粛な場としての環境を保つため、火葬場利用環境改善基金を創設するとともに、今後の整備についての考え方を示す市立火葬場基本構想を策定します。

多世代交流のまちづくりについては、介護予防センターなどの公共施設を、多様な世代・人が集まり、交流し、過ごすことができる居場所として多機能化し、再編する取組みを地域の皆さんと一緒に進めます。

魅力活力・躍進〔魅力と活力あふれるまち とよなか〕

次に、「魅力と活力あふれるまち とよなか」です。

本市の地域特性を活かし、地域経済を活性化させる「とよなかエコシステム推進プロジェクト」とあわせて、大阪・関西万博を機に、本市の魅力を発信し、まちの発展・成長につなげます。

地域特性を活かした事業者の立地を促進するため、宿泊機

能や本社機能などの都市機能を誘導する新たな仕組みづくりを進めます。

子育てしやすさＮＯ．１の実現に向け、まち全体でさらに子育て環境を充実させるため、子育て世帯の多様なニーズに応える事業の創出を支援し、地域の子育て関連産業の活性化につなげます。

新たな価値を生むビジネスモデルを構築するスタートアップに対する支援を強化し、市内に新たな市場を広げます。

大阪・関西万博に、子どもたちを無料招待し、世界の最先端技術や価値観に直接触れることで、将来への夢や希望を持てる機会とします。

また、サンマテオ市と本市の子どもたちを一緒に万博会場に招待するとともに、環境学習等を行う国際交流プログラムを実施し、両市の交流を深め、国際的な人材の育成につなげます。

変革〔持続的で豊かなまち とよなか〕

最後に、「持続的で豊かなまち とよなか」です。

デジタル技術や民間活力を活かし、地域の課題に対応し、

市民サービスを向上させます。

窓口での手続き時に、マイナンバーカードなどの証明書類の自動読み取りや職員の聞き取りにより申請書を作成する「書かない窓口」を強化します。また、転出や市内転居の際に、届出を関係窓口で共有することにより、複数の窓口を回っていただかなくとも手続きが済むようにするなど、窓口サービスをレベルアップします。

就学援助の審査結果をはじめ、申請等に対する本市からの返答をオンラインで通知できるようにします。

公民学連携については、民間企業等の専門的な技術やノウハウを持つ副業・兼業人材の活用を拡大するほか、多様な企業や大学等との連携をさらに進めます。

広報戦略については、外部の視点や人材を積極的に活用するとともに、よりわかりやすい、魅力的な動画配信を行うなど、市民の皆さんの共感を得られる広報を推進します。

人材戦略については、行政経験者の採用やさまざまな採用手法の実施により政策推進に必要な人材確保に取り組みます。また、人事・給与制度の見直し、外部組織との人事交流、就業環境の充実など、これまでの取組みを発展・強化させ、職員のエンゲージメントを高めます。

財源の創出にあたっては、ふるさと納税やクラウドファンディング等による歳入の拡大、学校跡地の暫定活用などの未利用地の有効活用、事務の見直しを徹底的に行います。

公共施設等総合管理計画については、長期的なニーズや財政面への影響等をふまえて、計画を前倒して見直しに着手します。

未来を担う若者によるまちづくりを後押しするため、若者たちが抱く「こういうまちにしたい」、「こんなまちであってほしい」という想いを自らが実践する「若者チャレンジらぼ」を新たに実施します。

以上、極めて概括的ではありますが、基本政策にそって内容を説明させていただきました。

本日、ご提案いたしました予算案およびその他の諸議案につきまして、関係職員からご説明申し上げますので、よろしくご審議いただきますようお願い申し上げます。